

社協ワーカーだより



No.48 平成28年9月

地域のみなさんや関係機関の方々に向けて社協ワーカー（職員）の動きや社協の事業について情報発信するお便りです！！

発行：福岡市社会福祉協議会地域福祉課（Tel.720-5356）
各区社会福祉協議会



奉仕銀行



～皆様の善意をお寄せください！！～



「奉仕銀行」は、福岡市社会福祉協議会が、市民の皆様から寄付金や物品の寄贈をお受けし、広く社会福祉の向上につなげるために社会福祉関係団体等に配分する仕組みです。

【寄付金の使いみち】（本会に対するご寄付は、所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。）

○社会福祉分野に携わる当事者団体等への活動費として…

団体等の活動で使用する備品の購入や、社会福祉の向上を促進する新規事業費などに活用されています。

※寄付金を有意義に、透明性をもって活用するために、福祉関係者からなる「奉仕銀行運営委員会」の審査を経て適正な配分を行っています。



○本会の事業費として…

寄付者の意向に沿って、本会が実施する「ずーっとあんしん安らか事業[※]」等で活用しています。

※ずーっとあんしん安らか事業…高齢者の皆様が安心して生活を送れるよう、事前に預託金を福岡市社会福祉協議会が預かり、葬儀・家財処分等のサービスを実施する事業。契約後は定期的な見守りサービスの実施や入退院のお手伝いなどを行います。

○目的や用途を限定した助成事業として…

高齢者福祉施設の入浴設備の充実のために活用する「高齢者福祉推進基金」などがあります。

【物品寄贈の使いみち】

○高齢者・障がい者・児童・母子施設等の福祉関係団体へ

寄付者の意向を汲みながら、物品ごとに受け入れ先を選定・調整しています。

〈例えば…〉

- ・コンサートやプロ野球観戦などの招待券を、障がい者施設やひとり親家庭へ
- ・車いすなどの物品を、高齢者施設へ



この他にも、「寄付つき商品（例：寄付つきペン…購入金額の一部を本会・共同募金会に寄付）」の企画なども行っています。また、「奉仕銀行」以外でも、寄付金を財源として、子ども・子育てに関する先駆的な取組みに対して助成する「福岡市母子福祉会芙蓉基金 ひとり親家庭等福祉振興助成事業」も実施しています。寄付や寄贈といった形で地域福祉の発展に協力したい！と思われる方がいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。

＜問い合わせ先＞福岡市社会福祉協議会総務課（Tel：751-1121）

～多世代の地域住民が、専門職と協力しながら高齢者を見守る取組み～



人は誰でも年を取るとそれなりに物忘れ等が始まります。中には、認知症を患い、自分の家がわからなくなってしまう人もいます。

ある町内では、ふれあいネットワーク班や老人クラブ、介護の専門職が集まり、「自分たちの町で、顔見知りの高齢者が家に帰れなくなったりした時に、なにができるだろうか」ということについて考えはじめたことがきっかけとなり、実際にその町に住んでいる方に「認知症で道が分からなくなって困っている人」に扮してもらい、「徘徊高齢者搜索模擬訓練」を行うこととなりました。

準備にあたっては、校区内の約30か所の店舗を訪問し、取組みへの理解を求めました。店舗からは「自分の店でも心配な高齢者に会ったことがある。このような取組みがあるのは良いことだ」といった声が聞かれ、賛同してもらうことができました。

当日は、子ども会の小学生と保護者、老人クラブ、ふれあいネットワークボランティア、区内の介護事業所、区役所、区社協が訓練に参加しました。まず、参加者は探し方の説明を受け、徘徊高齢者を見つけたときの声のかけ方を紙芝居等で学びました。その後、搜索役の小学生と老人クラブ合同のグループで4つのグループに分かれて2人を搜索し、見つけたら搜索本部に見立てた介護施設へ連絡しました。



子どもたちは近所のお店や通りがかった人に積極的に声かけし、「知り合いのお年寄りを探す」という自然な感覚で参加している様子でした。保護者からは「日頃から住民がお互いを気にかけておくことの大切さがわかった」との感想も聞かれました。

この取組みにより、地域住民や事業所が顔見知りになり、当事者やその家族だけでなく、皆で協力して高齢者を見守る地域づくりに向けた第一歩を踏み出すことができました。



今月の 気（KEY）になる！！キーワード



「ユマニチュード」

ユマニチュード (humanitude) とは、高齢者、とりわけ認知症の人に有効だとされるフランス生まれの介護技術のことで、「人間らしさ」という意味を持つ造語です。

「人とは何か」を問う哲学と、言語・非言語によるコミュニケーション技法に基づいており、「見つめる」「触れる」「話しかける」「立つ」の4つの柱による実践的な技術で構成されています。

「私はあなたを大切に思っている」という介護者の思いを、介護を通じて伝える技法であることから、介護を受ける人の心の安定や残存能力の向上に大きな力を発揮しています。具体的には、「見つめながら会話位置へ移動する」「アイコンタクトが成立したら2秒以内に話しかける」「言葉をかけながら相手に静かに触れる」など、様々な手法があります。

介護する人の燃え尽き症候群を防ぐ効果もあるなど、介護を受ける人、行う人双方に素晴らしい効果をもたらすものとして注目を集めています。

「いざというとき」に備え、日頃からの心がけや、非常時を想定した訓練をすることはとても大切です。周船寺校区ではこの7月、校区避難訓練にあわせて、ネットワーク対象者（要援護者）宅を訪問し安否確認をする訓練が行われました。終了後の反省会では「普段から訓練することの大切さがわかった」「町内の関係者が、要援護者の状況について認識を深める良い機会だった」などの感想が出たそうです。

また、ある校区では、今号記事中の「徘徊高齢者搜索模擬訓練」への取組みが新たに始まっています。興味がある方、詳しい内容を知りたい方は、校区担当CSWまでお声かけください！

お問合せ：西区社会福祉協議会 Ⅱ：895-3110